

12月定例会 一般質問要旨



図書館における多文化サービスの充実について

立憲民主党 神谷 大輔

議員 中央図書館が所蔵する外国語書籍等の蔵書数を伺います。

文化スポーツ部長 一般書が2,092冊、児童書が1,655冊です。

議員 この蔵書数は地域教育のインフラであるとも言え、有効活用を促すべきと考えます。そのためには利用者の外国語書籍等に対するニーズの把握が求められますが、所見を伺います。

文化スポーツ部長 本年度、児童生徒および図書館利用者に対してアンケート調査を実施しましたので、外国語書籍等の購入時に参考にしたいと思います。また外国人向けアンケート調査の実施について研究したいと思います。

議員 中央図書館における多文化共生コーナー設置の経緯を伺います。

文化スポーツ部長 本市には1万人を超える外国人が居住し、経済や産業を支えています。また外国人集住都市会議の幹事自治体でもあります。外国人が地域に定住することで、受け入れ側とお互いに



理解を深めることが必要であるという考えのもと、特設コーナーを設置し、資料の充実に努めています。

議員 図書館を通じて日本人と外国人の相互理解を促す取り組みについて、市長の所見を伺います。

市長 生活の中でお互いが理解し合えるような環境をつくるための一つ的手段として図書館があるのかもしれませんが、単に外国語の本があればいいということではなく、必要な本、みんなの利用価値が高い本を蔵書していくような対応をしたいと思います。

- その他の質問
- ・台風19号の災害対応について



妊産婦の交通手段について

創政クラブ 松川 翼

議員 妊婦の出産の際、本市で実施している交通支援の現状を伺います。

健康医療部長 特に実施していることはありません。自家用車がない等、支援が必要な方には、陣痛時に対応可能なタクシー事業者の情報を伝えています。

議員 おうかがい市バスの利用条件では、妊産婦は対象外とのことですが、自家用車があっても自分で運転できない状況になり得る、交通弱者の範囲に入るとはならないかと考えます。妊産婦の交通手段について所見を伺います。

市民生活部長 おうかがい市バスは高齢者を対象とし、通院や買い物の交通手段として運営しています。妊産婦の交通手段については、本人、家族および知人による運転や、タクシーの利用をしていただきたいと考えます。

議員 市が窓口となり、陣痛時にタクシーを優先的に配車する、タクシー代金の補助を行うなどの、陣痛タクシーと呼ばれるサービスを行うことについて、市長の所

見を伺います。
市長 自助、共助、公助とありますが、自分の意志で出産するのであれば、自分で環境を整える自助、あるいは友人や親に協力してもらって共助の力で子どもを育てることが大事だと思います。



議員 産前産後の妊婦の外出において、おうかがい市バスを活用することについて市長の所見を伺います。

市長 運転ができない、もしくは誰にも頼めない妊産婦がいるという場合には考慮したいと思います。

- その他の質問
- ・電子申請推進のためのマイナンバー活用について



がん対策について

公明クラブ 高橋 えみ

議員 がんの治療をしながら日常生活を送ることができる時代となり、がんとの共生という視点からの支援がますます重要となっています。本市において今年度より実施しているアピランスケアの支援制度の実績を伺います。



健康医療部長 本年10月までの実績として、ウィッグ30件、乳房補整具9件の助成をしています。

議員 リンパ浮腫の治療に対する保険適用の現状を伺います。

健康医療部長 弾性着衣の購入に対し、1回につき2着を限度として療養費を支給しています。なお、購入後6カ月が経過すれば再度の支給が可能です。

議員 外部講師の活用を含めたがん教育のあり方について所見を伺います。

教育長 がんを扱うことを通じて全般的な疾病の予防を目指すことが大切です。教育は子どもの実態を最もよく知る教員が行うべきですが、不十分な面については外部講師の力を借り、子どもにとって身近な観点から、命の大切さを知る機会をつくりたいと思います。

議員 今後のがん対策について市長の所見を伺います。

市長 これからも早期発見、早期治療を軸に、学校や社会教育の場等、あらゆる機会でワンコインがん検診の受診を推進していきたいです。

議員 リンパ浮腫の患者に対し、弾性着衣の3着目の個人負担を軽減することについて市長の所見を伺います。

市長 むくみは大変だと思います。医師と相談し、どの程度の装備が必要なのかを確認して、個人の過剰な負担があれば対応を検討したいと思います。



高齢者への交通対策と施策について

創政クラブ 高藤 幸偉

議員 運転支援システム付自動車購入費補助制度の対象と現況を伺います。

市民生活部長 (株)SUBARU社製造のアイサイト搭載自動車を購入した65歳以上の方を対象に、本年10月より実施しています。11月22日現在で35件の申し込みがありました。

議員 新車の購入については、補助があったとしても自己負担が大きいのと思います。後付けのペダル踏み間違い時加速抑制装置の購入補助や貸し出しを行い、運転免許証の自主返納時に装置を返却するという制度を検討すべきと考えますが、所見を伺います。

市民生活部長 後付けの装置に対する補助は予定していませんが、政府が助成を検討しているようですので、動向を注視し、研究したいと思います。

議員 本市では市営無料バスやおうかがい市バス等、自家用車以外の移動手段の選択肢を広げるべく取り組んでいますが、これらは高齢者の運転の機会を

減少しても、運転時のリスクの軽減にはなりません。運転時の危険回避のため、後付けのペダル踏み間違い時加速抑制装置に対する補助を行うことについて、市長の所見を伺います。



市長 高齢者の事故は機材によって防げるというわけではないと考えます。補助金に頼るのではなく、自ら自分と他人の命を守る意識を持ってほしいと思いますが、補助を行っている他自治体でその効果が確認できれば、研究してみたいと思います。

- その他の質問
- ・地域の避難所となる学校施設のあり方について